

桜ヶ丘高等学校2学年保護者の皆様

教育・入試改革について ～近年の入試情報～

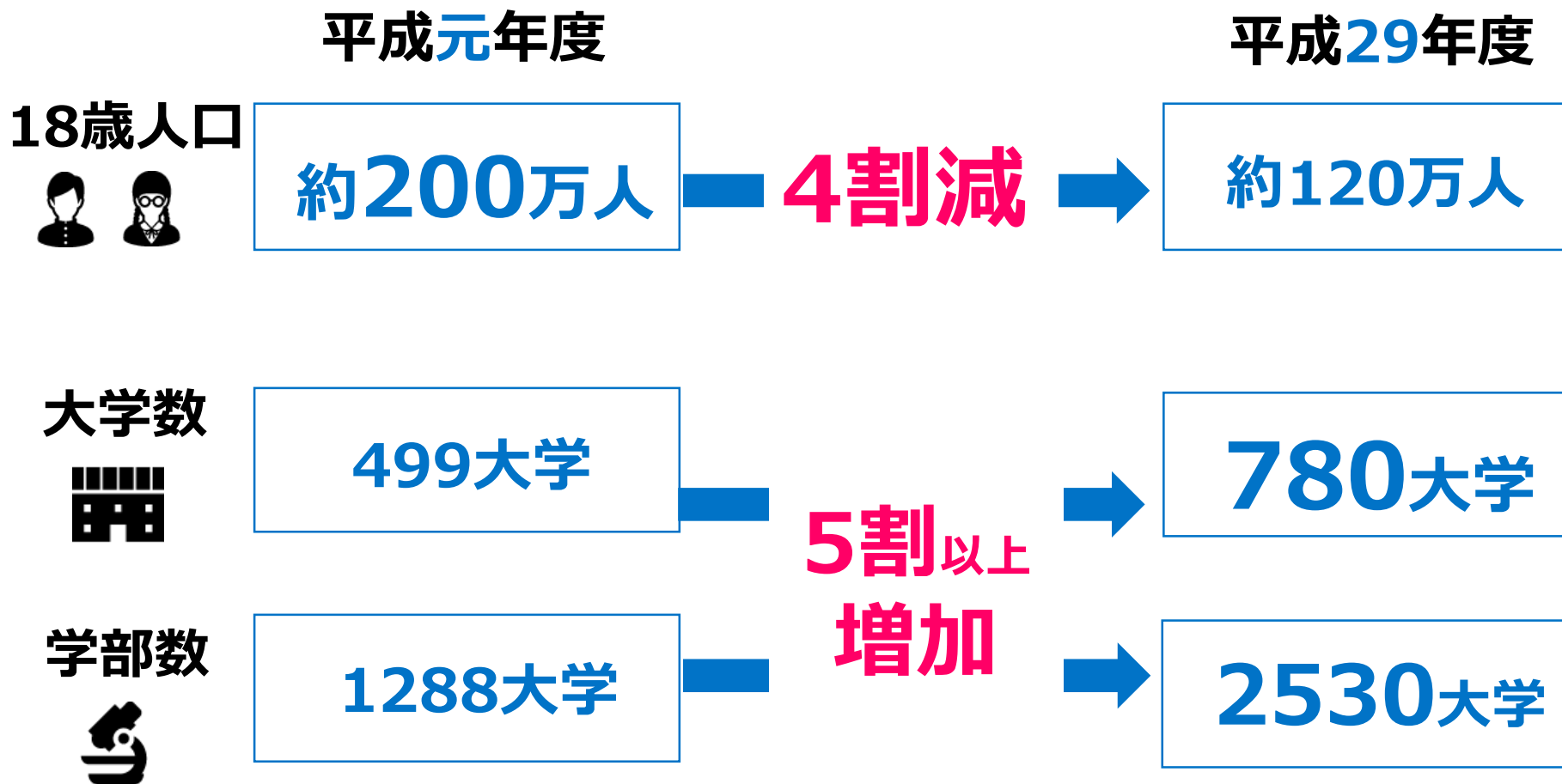
高校生の進路・進学を応援する

Benesse® マナビジョン

<http://manavision.jp>
▲ パソコン・携帯電話とも、このURLからアクセスできます。



(株)ベネッセコーポレーション
中四国支社 江崎陽一郎

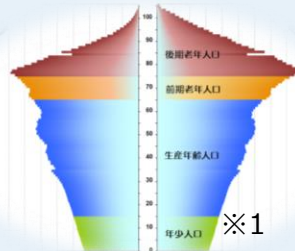


人口は減少しているが、大学数・学部数は大幅に増加

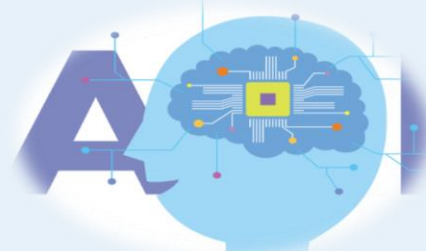
社会環境の変化



グローバル化



少子高齢化



AIの進展

予測のつかない社会において、様々な課題に対し
多様な人々と協働して解決していくことが必要な時代に

高校教育の改革

- 学力の3要素の育成
- 教育内容の見直し
- 学習・指導方法の改善

高大接続改革
(入試改革)

- 大学入学共通テストの導入
- 英語の資格・検定試験の導入
- 多面的総合的評価入試の拡大

大学教育の改革

- 3つのポリシーの明確化
- 社会との連携強化

新たな時代に必要となる資質・能力の育成

知識
技能

思考力
判断力
表現力

主体性
多様性
協働性

学力の3要素

大学入学共通テスト

記述式問題の導入
思考力・判断力・表現
力を測る問題の出題

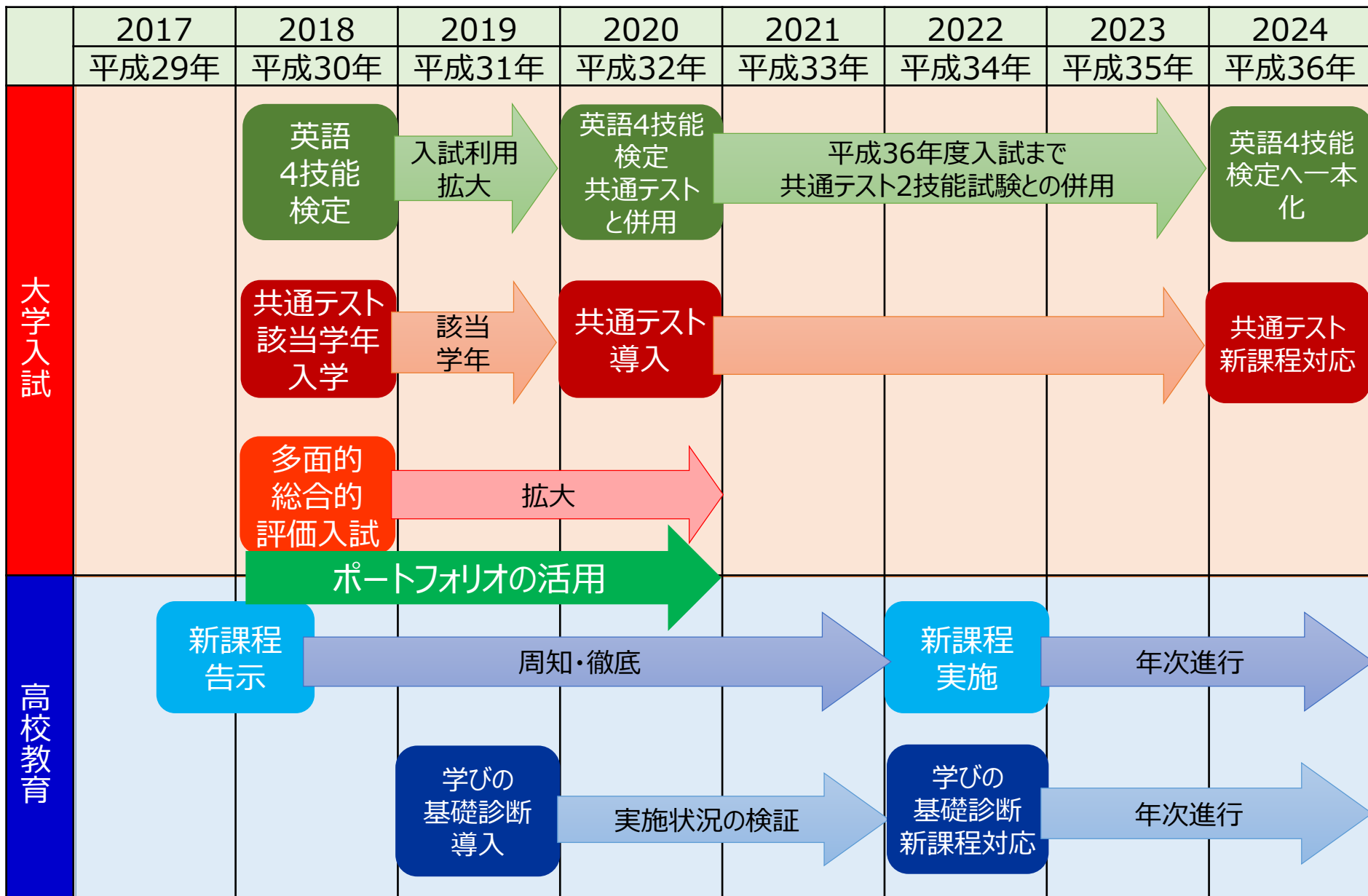
英語の資格・検定試験

従来の「読む」「聞く」に
加え「書く」「話す」力も
測定

多面的・総合的評価入試

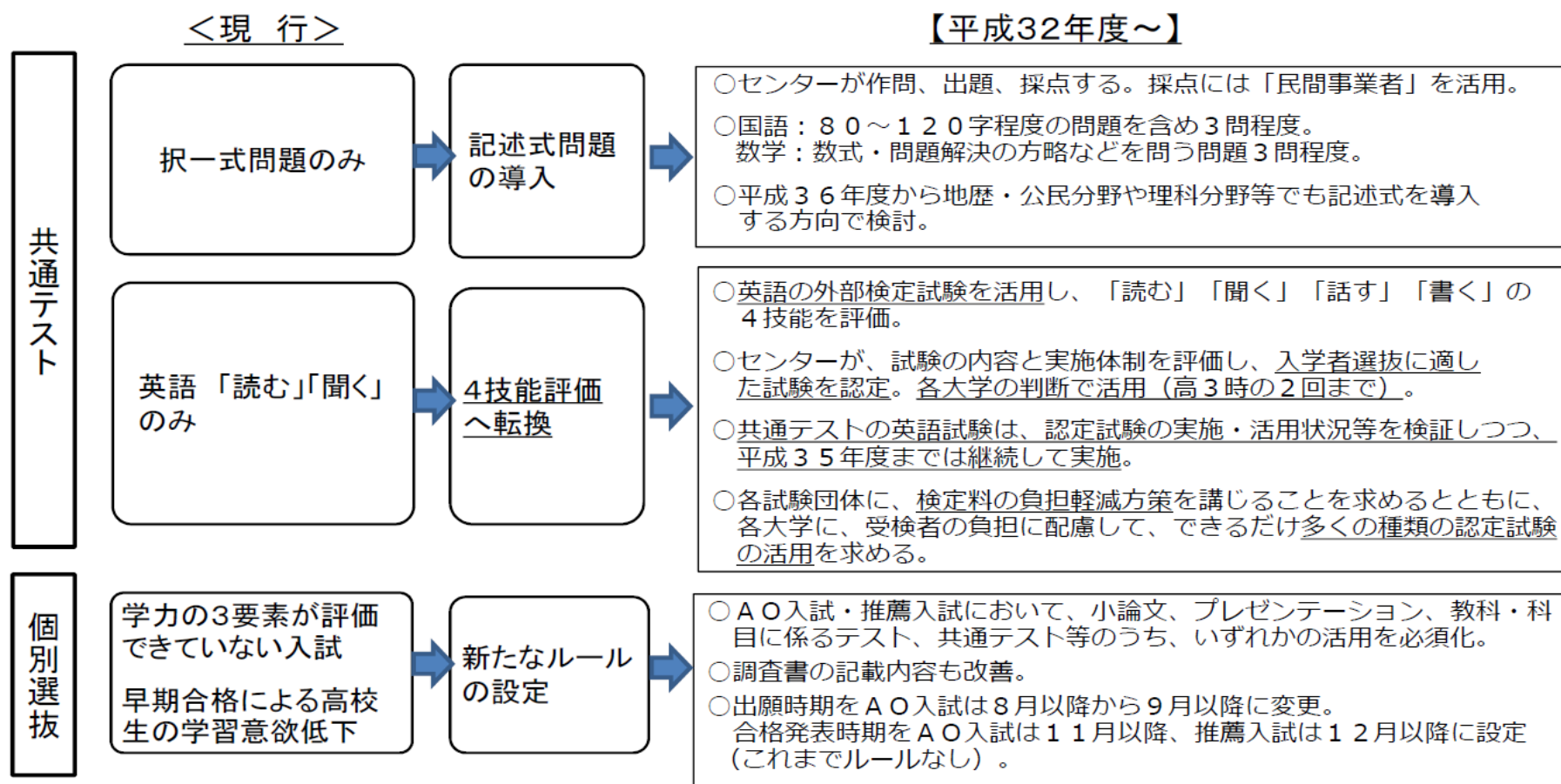
高校3年間の活動履歴
や資格等も評価対象に

5 教育改革・入試改革のスケジュール



6 最も分かりやすい入試改革全体像

- ◆ 受検生の「学力の3要素」について、多面的・総合的に評価する入試に転換
① 知識・技能 ② 思考力・判断力・表現力 ③ 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
- ◆ 高大接続改革実行プラン、高大接続システム改革会議最終報告に沿って、大学入学者選抜の改革を着実に推進
- ◆ 平成32年度「大学入学共通テスト」開始 ※記述式、英語4技能
平成36年度 新学習指導要領を前提に更に改革



変わる
入試

- 思考力・判断力・表現力をより重視
- 記述式問題の導入（国語・数学）
- 英語は民間の4技能検定試験も活用

「社会との関わり」や
「協働学習」「探究活動」
の場面で働く思考力

「複数の資料」を読み取り、
情報を統合・考察する力

多様な解答形式への対
応
(選択肢を参考に
解答できない問題)

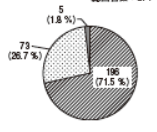
【資料③】

青原高校新聞（平成28年9月7日 文化祭特別号 青原高等学校新聞部 抜粋）

青高生の主張

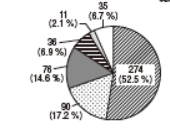
「部活動の充実」の内訳

総回答数：274



青原高校に求めるもの（複選）

総回答数：274



青原高等学校 生徒会部活動規約

第1章 総則

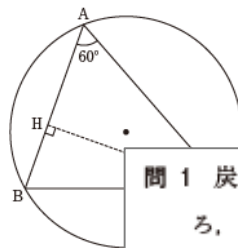
- 第1条 部は青原高等学校生徒会会員によって構成する。
 第2条 部活動に関する事項は生徒会部活動委員会で審議の議決を経て職員会議に提案する。
 第3条 生徒会部活動委員会は、生徒会本部役員と各部の部員で構成する。
 第4条 生徒会部活動委員会には、委員会の円滑な運営のため、各部の部長を置く。
 委員長 各部の部長のうちから1名
 副委員長 生徒会本部役員のうちから1名
 体育部長 体育部の部長のうちから1名
 文化部長 文化部の部長のうちから1名

第2章 部の運営

- 第5条 部活動は部員の自主的活動によって部員の趣味・娯楽

花子：まず、Bが鋭角の場合を考えてみたよ。

<花子さんのノート>



点Cから直線ABに垂線CH

$$AH = AC \cos 60^\circ \quad \text{①}$$

$$BH = BC \cos B \quad \text{②}$$

である。ABをAH、BHを用いて表すと

$$AB = AH + BH \quad \text{③}$$

であるから

$$AB = \text{ス} \sin B + \text{セ} \cos B \quad \text{④}$$

問1 炭素、水素、酸素からなる、ある有機化合物12gを完全燃焼すると、二酸化炭素0.60molと水0.80molが生成した。この有機化合物の分子式を、次の①～⑥のうちからすべて選べ。

1

2017年11月実施
大学入学共通テスト 試行調査より

進研模試では新しく、思考力・判断力・表現力を問う問題を 時期に応じて部分的に出題しています

進研模試 改訂 モデル問題 【高1 数学】

[2] 不等式 $\sqrt{3}x - 12 > 2x - 8\sqrt{3}$ を次のように解いたが、この式変形には間違いがある。どの部分の式変形が間違いかを ①～④ の番号で1つ以上答え、間違っている理由も述べよ。

$$\sqrt{3}x - 12 > 2x - 8\sqrt{3}$$

↓ ①

$$(\sqrt{3} - 2)x > 12 - 8\sqrt{3}$$

↓ ②

$$x > \frac{4(3 - 2\sqrt{3})}{\sqrt{3} - 2}$$

↓ ③

$$x > \frac{4\sqrt{3}(\sqrt{3} - 2)}{\sqrt{3} - 2}$$

↓ ④

$$x > 4\sqrt{3}$$

これまでも求めていた力

不等式の数学的性質に着目し場合を分けて考える力
1次不等式を正確に解く力

加えて、これから求めたい力

答案例を読み解いて、他者の数学的表現を理解する力
なぜ間違っているのか、自分の意見を表現する力

「大学入学共通テスト」の概要

目的	<u>大学教育を受けるために必要な能力の測定</u> ・思考力・判断力・表現力を中心に評価
対象者	<u>大学入学希望者</u> ※社会人等も受験可能
出題教科 科目等	<u>現行学習指導要領下では「教科型」で出題</u> ※次期学習指導要領下（2024年度～）では出題教科・科目を、簡素化も含めて見直す
形態	<u>マークシート式問題を実施し、「国語総合」と「数学Ⅰ」は記述式問題も導入</u> ・次期学習指導要領下（2024年度～）では地歴公民分野や理科分野でも記述式の導入を検討 ・CBT導入の検討は続け、その成果を踏まえて2024年度からの複数回実施の可能性を引き続き検討 ・2020～2023年度まではセンター作成の共通試験と外部検定のいずれか又は双方を利用、2024年度からは外部検定のみ ・ 記述式が導入される国語の試験時間は80分から100分に、数学Ⅰ・ⅠAは60分から70分となる。
実施回数	<u>当面は年 1 回実施</u> （複数回実施は引き続き検討） ※英語外部検定は高校 3年生の4月～12月に2回まで受験 できる
実施時期	<u>2021年1月16日（土）・17日（日）</u> ・マークシート式問題と記述式問題は同一日程で実施
結果表示	<u>現行のセンター試験よりも詳細な情報を提供</u> ・設問・領域・分野ごとの成績、全受験者の中での成績を表す段階別表示 ・ 記述式問題は段階別で表示（3～5段階など） ※フィージビリティ検証事業の結果をうけて、大学への結果提供を1週間後ろ倒しとしている
実施主体	<u>センターが記述式問題も含めて作問、採点、その他を一括して処理</u> ・採点には民間事業者を有効活用

センター試験



聞く



読む



共通テスト



聞く



読む

資格・検定試験



聞く



読む



話す



書く

**国立大学協会の発表では
国立大学は共通テストと資格・検定試験の両方を課す方針**

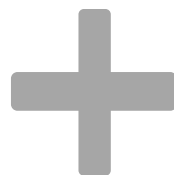
＜大学入試英語成績提供システムへの参加要件を満たした資格・検定試験＞

GTEC／ケンブリッジ英検／**TOEFL**／**TOEIC**／**TEAP**／**TEAP CBT**／英検
(※)／**IELTS**

※英検は従来方式ではなく、2018年度から実施予定の新方式のみが認定されている

■ 国大協「ガイドライン」における 英語試験の扱い

大学入試センター新テスト
(マーク式／聞く・読む)



民間の資格・検定試験
(聞く・話す・読む・書く)

- ① 出願資格として利用
- ② 新テストの英語試験の得点に加点
- ③ ①②の組み合わせ

出典) 国立大学協会「大学入学共通テストの枠組みにおける英語認定試験及び記述式問題の活用に関するガイドライン」

1 国立大志望者は「2つの試験」の受験が求められる

大学入試センターが作るマークシート式の試験と、民間の資格・検定試験を入学者選抜に用いることが必須とされた。また、「公平性を保証する観点から、センターが認定した全ての資格・検定試験を対象とする」ことも合わせて示されている。

2 民間資格・検定試験の「配点比率」は各大学ごとに判断

「新テストの英語試験の得点に加点」するパターンが示されたが、「加点する点数等の具体的な設定については、**各大学・学部等が主体的に定め**」、「募集要項等で開示する」としている。一律な基準がないため、各大学個別の情報収集が必要。

英語4技能検定「GTEC」は、 全国約102万人※の中高生にご受検いただいています

大学入試が「読む」1技能だけの時代から、「GTEC」は真の英語力=4技能を伸ばすことを追求してきました。学校教育の「使える英語」への変化と共に受け入れられ、多くの中高生に受検していただくまでになりました。

入試にスコアを活用できる大学数も増えています。入試に役立つだけでなく、卒業後にも役立つ英語力を育てるために、学校教育に寄り添って「GTEC」はこれからも進化し続けます。

中高生対象のスコア型英語検定

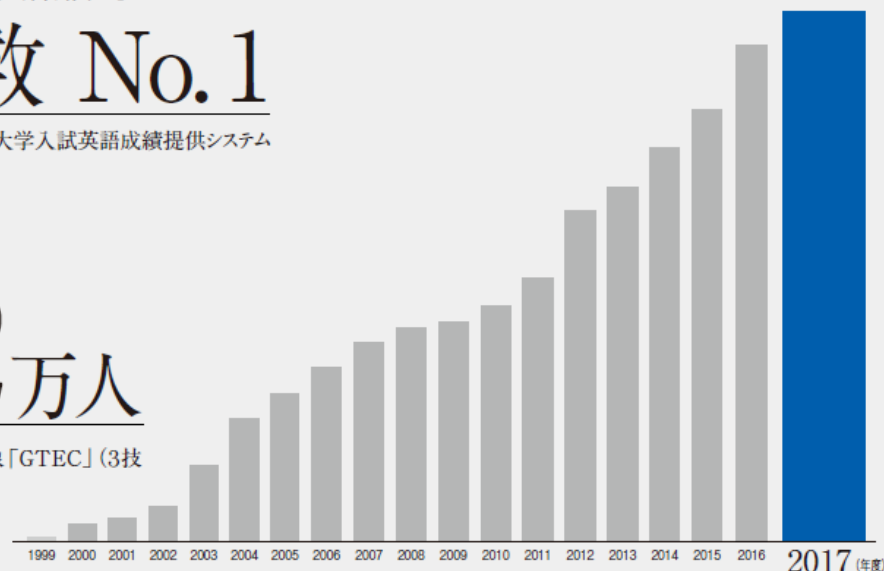
受検者数 No.1

2017年度実績／2017年度において大学入試英語成績提供システム
参加要件を充足している検定に限る

年間のべ受検者数

約102万人

(※)2017年度中学生・高校生対象「GTEC」(3技能受検を含む)受検者数



年間
受検校数
約1850校
全高校・中高一貫校約5,000校中/
2017年度実績/
3技能受検校を含む

大学入試
採用数
約510校
※2018年10月現在(海外含む)/
3技能受検の結果の
採用校を含む

※大学入試採用校の最新情報は、大学・短期大学入試要項など、各大学より公表される情報を必ずご確認ください。

※「GTEC」のスコアには、OFFICIAL SCOREと通常スコアがあります。大学・短期大学によって活用状況が異なりますので、必ず入試要項などで確認してください。

<2019年5月13日現在（文部科学省調べ）>

活用方法		大学名（学部等名）	大学数（※1）
①出願資格として活用	CEFR A2以上	埼玉、千葉、東京、東京医科歯科、東京外国語、東京農工、東京工業（個別学力検査（前期日程）英語の一部に活用）、お茶の水女子、電気通信、一橋、横浜国立（経済学部）、岐阜（医学部医学科）、浜松医科、名古屋、滋賀、京都、大阪、神戸、鳥取（農学部共同獣医学科）、島根（医学部医学科）、徳島（医学部医学科、歯学部歯学科、薬学部）、香川（医学部医学科）、愛媛（医学部医学科）、九州、琉球（医学部医学科）	25
	CEFR A1以上	帯広畜産、宮城教育、横浜国立（経営学部、理工学部、都市科学部建築学科、都市基盤学科、環境リスク共生学科）、上越教育、金沢、福井、京都教育、徳島（上記以外）、香川（上記以外）、愛媛（医学部医学科以外）、高知、福岡教育、熊本	13
	CEFR 基準の定めなし	奈良女子（※4）、岡山（※4）、広島	3
	CEFR 基準は未定	旭川医科、東京海洋、滋賀医科	3

※大学数には、一部の学部等のみで実施する場合を含める

文部科学省 2021年度入学者選抜における「大学入試英語成績提供システム」参加試験の活用予定（国立大学・一般選抜）より

2019年5月13日時点での国立大学における①出願資格としての活用は

CEFR A2以上：25大学

CEFR A1以上：13大学

14 「大学入試英語成績提供システム」活用予定（国立大学・一般選抜）

②点数化して加点（大学入学共通テストの成績に加点）	北海道教育、室蘭工業、弘前、岩手、秋田、福島、茨城、筑波、筑波技術（産業技術学部）、群馬、東京藝術（美術）、新潟、長岡技術科学、富山（人間発達科学部、経済学部、医学部、薬学部、芸術文化学部、都市デザイン学部）、信州、岐阜（医学部医学科以外）、静岡、愛知教育、名古屋工業、豊橋技術科学、三重、大阪教育、兵庫教育、鳥取（地域学部、医学部生命科学科、医学部保健学科、工学部、農学部生命環境農学科）、島根（医学部医学科以外）、山口、鳴門教育、九州工業、佐賀、大分（医学部医学科以外）、鹿児島、鹿屋体育、琉球（医学部医学科以外）	33
③出願資格及び点数化して加点	小樽商科、横浜国立（教育学部、都市科学部都市社会共生学科）、信州（教育学部英語教育コース）、京都教育（英語領域専攻）、鳥取（医学部医学科）、長崎、大分（医学部医学科）	7

※大学数には、一部の学部等のみで実施する場合を含める

文部科学省 2021年度入学者選抜における「大学入試英語成績提供システム」参加試験の活用予定（国立大学・一般選抜）より

2019年5月13日時点での国立大学における活用は

②得点化して加点：33大学

③出願資格及び点数化して加点：7大学

すべての入試区分で学力の3要素が求められる

名称変更	「一般入試」 ⇒「一般選抜」	「AO入試」 ⇒「総合型選抜」	「推薦入試」 ⇒「学校推薦型選抜」
内容面での 課題①	①出題科目が1・2科目に限定されている ②記述式がない場合も ③英語4技能を総合的に評価する必要あり	現行の実施要項「知識技能の習得状況に過度に重点を置いた選抜としない」と記載があるが、一部、事実上の「学力不問」となっている場合がある	現行の実施要項で「原則として学力検査を免除」とあるが、一部、事実上の「学力不問」となっている場合がある
課題①への 改善点	①教科・科目に関わるテストの 出題科目の見直し ②国語を中心とした 記述式の導入 ・充実など作問の改善 ③ 英語4技能評価の導入 ※上記①～③は総合型選抜・学校推薦型選抜でも推奨	・上記実施要項の記載の削除 ・ 志願者本人の記載する資料 （活動報告書、入学希望理由書、学修計画書）等を積極的に活用し、詳細な書類審査と丁寧な面接による評価の充実	・上記実施要項の記載の削除 ・ 推薦書の中で学力の3要素の評価を必須化
内容面での 課題②	特に主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度の評価が不十分	特に知識・技能及び思考力・判断力・表現力の評価が不十分	
課題②への 改善点	・ 調査書・志願者本人の記載する資料 （エッセイ、面接、ディベート、集団討論、プレゼン、各種大会の顕彰の記録、探究的な学習の成果に関する資料・面談）等の積極的な活用 ・調査書等をどのように活用するかについて、各大学の募集要項に明記	・調査書等の出願書類だけでなく、 各大学が実施する評価方法等 （自らの考えに基づき論を立てて記述させる評価方法（小論文等）、プレゼンテーション、口頭試問、実技、教科・科目に関わるテスト、資格・検定試験等の成績など）、又は 大学入学共通テスト のうち、少なくともいずれか一つの活用の必須化	

* 文部科学省「高大接続改革の実施方針等の策定について」（2017年7月）より

一般・推薦・AOの入試区分を見直し、**全ての区分で学力の3要素が適切に評価**されるようにする。
 具体的には、**一般入試において「調査書や志願者本人の記載する資料等」の積極的な活用、**
推薦・AO入試において「学力不問」につながる記載の削除などを検討。

◆全学共通の取り組み

一般選抜（現行の一般入試）および大学入学共通テスト（現行の大学入試センター試験）を利用した入試の改革

■政治経済学部の場合

一般入試について、大学入学共通テスト、英語外部検定試験、学部独自試験（日英両言語による長文を読み解いたうえで解答する形式）の合計点により選抜する方式に変更します。

2. 一般入試改革の内容

(1) 試験内容（政治学科・経済学科・国際政治経済学科共通、合計 200 点満点）

1) 大学入学共通テスト（100 点）

2) 英語外部検定試験および学部独自試験（100 点）

- ・使用できる英語外部検定試験は、大学入学共通テストで活用される試験を前提として検討中です。

※英語外部検定試験の配点割合は 2) の 3 割程度（全体の 15%程度）とする予定です。

- ・学部独自試験は 1 科目のみを 90 分間で実施します。なお、日英両言語による長文を読み解いたうえで解答する形式とし、記述解答を含むこととします。

選択肢から正解を選ぶマークシート方式の入試

国語・数学
<記述式問題>

英語
<話す・書く>

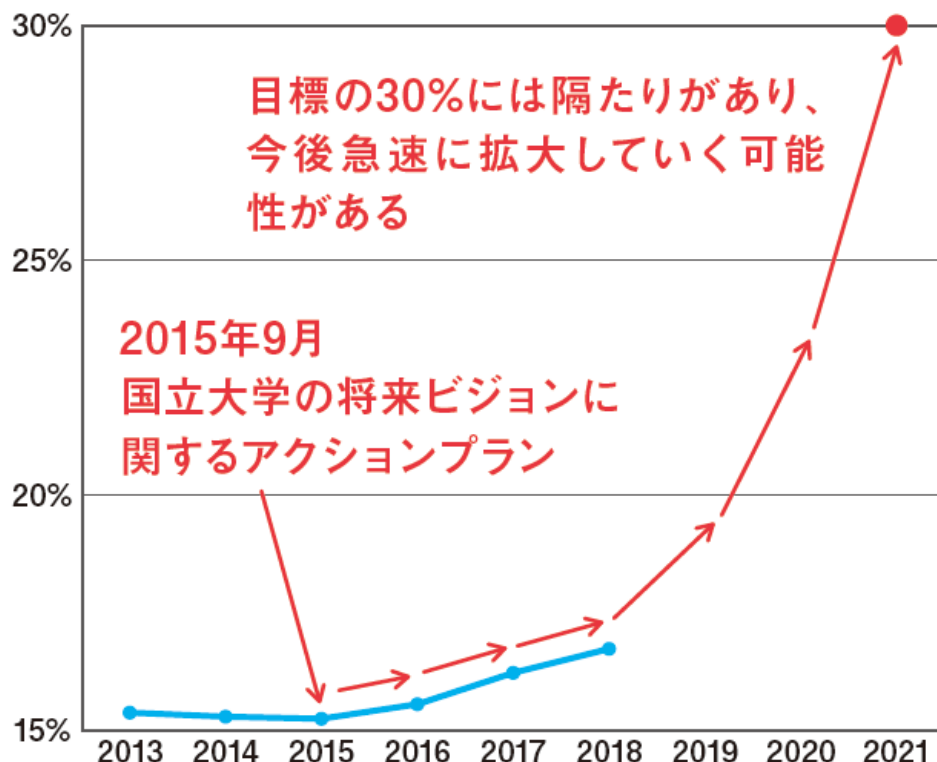
**自分の意見・考えを持ち、表現し伝える力が問われる
(思考力・判断力・表現力)**



推薦・AO入試の拡大

志願者は学びの報告書等が求められる

国立大における推薦・AO入試の募集人数の推移



学びの報告書・志望理由書 等

例: 京都大 教育学部特色入試
学びの報告書(生徒作成書類)

平成 30 年度 学びの報告書

※印刷の際は記入しないでください。

以下の項目について、志願者自身が黒のペン又はボールペンを用いて自筆で記入してください。
(パソコン等で作成したものは不可)。
なお、記入にあたっては、「添付資料に関する注意事項」を確認してください。

【1】 中学時代から現在までに数々続んだ「学び」の活動(各教科での学習や総合的な学習の時間、読書、課外活動、学校行事での活動、ボランティア活動等)のうち、主なものを時間の経過に沿って記述してください。

(1) 「時期」欄には活動を行った時期(西暦で〇年〇月、〇年〇月～〇年〇月など)を記入してください。

(2) 「活動内容」欄には活動の名称と簡単な説明を書いてください。その際、その成果を示す資料を添付してください。グループの作品や活動については、あなたの貢献部分を明示する説明をつけてください。

(3) 「資料番号」欄には対応する資料の番号を記入してください。
※取得した資格や各種の検定については、上記とは分けて【2】の欄に記載してください。

時 期	活 動 内 容	資料番号

「学び」の活動のうち主なものを
時間の経過に沿って記述

取り組んだ具体的な内容や生み出した成果、
自分自身にとっての意義を記述

調査書や提出書類等の見直しについて【主なポイント】（案）		
①調査書	調査書	推薦書
	○「指導上参考となる諸事項」の見直し 記載欄を拡充し、以下の①～⑥の各項目ごとに記載するよう分割。 ①各教科・科目及び総合的な学習の時間の学習における特徴等 ②行動の特徴、特技等 ③部活動、ボランティア活動、留学・海外経験等 ④取得資格・検定 ⑤表彰・顕彰等の記録 ⑥その他 ※ 調査書の両面1面の制限を撤廃し、弾力的に記載 ○「調査書記入上の注意事項等について」の見直し 共通の留意事項として、以下の内容の記載を求めるよう変更。 ③の部活動、ボランティア活動等の具体的な取組 ④の資格・検定の内容、取得スコア、時期 ⑤の各種大会やコンクール等の内容や時期等 (その他、国際バカロレア、科学オリンピック、生徒の成長の状況に関わる所見など) ○大学が指定する特定の分野において特に優れた学習成果を上げたことを調査書の備考欄に記載(例:保健体育、芸術、家庭、情報等) ○「評定平均値」について、学習成績を全体的に把握する趣旨の明確化や目標に準拠した評価の観点から、適切な名称に変更(「学習成績の状況」) ○入学者受入れの方針に基づき、調査書や志願者本人の記載する資料等を具体的にどのように活用するのかについて、募集要項等に記載する 〔※ 調査書等の活用にあたり、各高等学校が定める学校運営の方針等に関する情報について、必要に応じ提供を求めることができる〕	○入学希望者の学習や活動の成果を踏まえた「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」に関する評価についての記載を必ず求める。その際、生徒の努力を要する点なども、特に配慮を要するものがあれば記載。
	志願者本人の記載する資料等 ○活動報告書の記載内容や様式のイメージの例示 ・「総合的な学習の時間」等において取り組んだ課題研究等 ・学校の内外で意欲的に取り組んだ活動(部活動、ボランティア活動、生徒会活動、資格・検定、各種大会・コンクール、留学・海外経験等) ○大学入学希望理由書や学修計画書の内容 各大学が、学部等の教育内容を踏まえ、入学希望理由や学びたい内容・計画、卒業後を見据えた目標等を記載させる。 ○活動報告書、大学入学希望理由書や学修計画書の活用 本人が記載する資料の活用にも努める。特に、総合型選抜や学校推薦型選抜において、これらの資料に関するプレゼンテーションなどにより積極的に活用。 ○実技を通じて評価している場合は、必要に応じて、活動報告書等を活用すること ○入学者受入れの方針に基づき、調査書や志願者本人の記載する資料等を具体的にどのように活用するのかについて、募集要項等に記載する(再掲)	②志願者本人の記載する資料等(活動報告書等)
調査書等の電子化		
○「大学入学者選抜改革推進委託事業」(平成28年度～)において、<u>高校段階でのeポートフォリオとインターネットによる出願システムが連動したシステムのモデルや主体性等を評価するためのモデルの開発等</u>を行っており、その取組状況も踏まえながら、調査書等の電子化の在り方について検討。		
③eポートフォリオシステムでの出願		

活動報告書のイメージ例

氏名 ()

(1) 学業に関する活動

① 学内での活動内容

活動期間 ()

※「総合的な学習の時間」、部活動、生徒会活動等において取り組んだ課題研究等

学内での活動**総合学習・部活・生徒会
を通じた課題研究**

② 学外での活動内容

活動期間 ()

※ボランティア活動、各種大会・コンクール、留学・海外経験等

学外での活動**ボランティア・各種大会・留学等**

* 文部科学省「高大接続改革の実施方針等の策定について(平成29年7月13日)

(2) 課題研究等に関する活動

① (課題テーマを選んだ理由)

課題研究の背景
テーマ設定時の記録の必要性

② (概要・成果)

**課題研究の
プロセスと成果**

平成 30 年 7 月
筑 波 大 学

平成 33 年度（2021 年度）入学者選抜の変更及び検討状況について

本学は、平成 30 年 3 月に、平成 33 年度（2021 年度）個別学力検査等（前期日程）及び推薦入試等について変更することを発表いたしました。

下記の事項に関する検討状況について、別紙のとおり公表します。

(4) 「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の評価

「総合選抜」では、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価するため、高等学校等から提出された「調査書」の記載事項について、点数化（50 点）して活用します。

なお、評価事項等の詳細については、調査書の改訂状況などを踏まえて検討し、公表する予定です。

(6) 大学入学共通テストにおける記述式試験結果の活用

(7) 「総合選抜」実施概要

筑波大学では、調査書を点数化（50点）して活用する。



WASEDA University

【全学共通の取り組み】

2021 年度 一般選抜（現行の一般入試） および大学入学共通テスト （現行の大学入試センター試験）を利用した入試の改革

すでに現行の一般入試問題でも、単なる「知識」だけではなく、「思考力・判断力」および「表現力」を必要とする問題を出題しています。こうした出題についてさらに工夫を加えて、高校までの学習をより適切に評価できるように努めてまいります。

それに加え、Web 出願時に、「主体性」「多様性」「協働性」に関する経験を記入（注）してもらうこととします。

（注）

- ・ 学校が作成する調査書に記載するのではなく、受験生本人が自分自身の経験を振り返り、文章化してもらいます。記入は出願要件としますが、得点化はしません。
- ・ 併願学部が複数あったとしても 1 回記入すれば全ての学部に応用します。
- ・ 記入した内容は、学部・学科の選考に活用します。
- ・ 詳細については 2019 年度版の「入試要項」を参照してください。

**出願時に「経験」を記入
記入は出願要件だが得点化はしない**

大項目	中項目	小項目
課外活動	探究活動	研究活動テーマ設定・活動成果
		実験
		フィールドワーク（調査活動など）
		学校内外における発表機会等
	アカデミック活動	学問レベルを競う各種オリンピックや模擬国連、コンテスト、大会への出場歴・入賞歴
	サマースクール・キャンプ	アカデミックなサマースクールやキャンプ、大学等での実験活動など
	留学・海外経験	留学
		海外フィールドスタディ
		海外交流イベント
		帰国生徒
	ディベート・スピーチコンテスト	ディベートやスピーチ、プレゼンテーションコンテストへの出場歴、活動履歴
委員会活動	高校内の組織活動	生徒会、委員会、クラス活動など
スポーツ活動	スポーツ活動の成果	運動系のパフォーマンスを競争する大会への出場歴
	スポーツ活動のプロセス	学校内の運動部の部活動記録 所属と役割と規模、資格等を記録 ※学外クラブチームなどは「その他クラブ活動」へ記録
文化・芸術活動	文化芸術系の成果	文化・芸術系のパフォーマンスを競争する大会への出場歴
	文化芸術活動のプロセス	文化系の部活・クラブでの活動（出版系統） 所属と役割と規模資格を記録

大項目	中項目	小項目
校外活動	その他クラブ活動の成果	その他活動のパフォーマンスを競争する大会への出場歴
	その他クラブ活動	その他のクラブ活動について所属と役割と規模を記録 ※学校外クラブ活動も本項目に含む
	コミュニティ活動	各種ボランティア活動
	ボランティア活動	
	キャリア活動	インターンの経験、NPO等での活動歴
	その他活動	上記以外の活動履歴
資格・検定	項目×取得時期	各種検定と取得した時期・スコア

※大学入学選抜改革推進委託事業
（主体性等分野）大学からの情報提供による

【主体性を含む多面的総合的評価の入試活用パターン（例）】

パターン1: 出願基準	パターン2: 加点	パターン3: 参考利用
「評価得点」が一定基準を満たしている者のみ 出願資格を認める	学力検査得点に、「評価得点」を加算し合否 判定を行う。	合否判定の参考資料として利用する

【ICTを活用した「主体性を含む多面的総合的評価」の仕組み】

Web出願ポータルサイト内
ポートフォリオデータ

	受験生 A	受験生 B	受験生 C
共通 評価項目	本人 登録内容	本人 登録内容	本人登録 内容
主体的に 取り組んだ 活動実績	なし	野球部 ▼ 3年間 ▼ キャプテンを務める ▼	研究 ▼ 3年間 ▼ 特集取材を受ける ▼
受賞歴	英語ディベート大会 ▼ 全国大会出場 ▼	なし	国際科学オリンピック ▼ 金賞 ▼
資格検定 試験	英語検定G ▼ 800 ▼ その他検定 ▼ 2級 ▼	英語検定G ▼ 550 ▼	なし
高校の学び で得たもの 大学で活か したいこと			

データ
連携

個別大学Web出願
成績管理システム

①配点登録（学部別）

	配点
主体的～活動実績	各大学 A P に従って設定
受賞歴	
資格検定試験など	
合計	

配点
登録

②データインポート・配点適用

	受験生 A	受験生 C
主体的～活動実績	0	0
受賞歴	3	5
資格検定試験など	3	0
合計	6	5

データ
連携

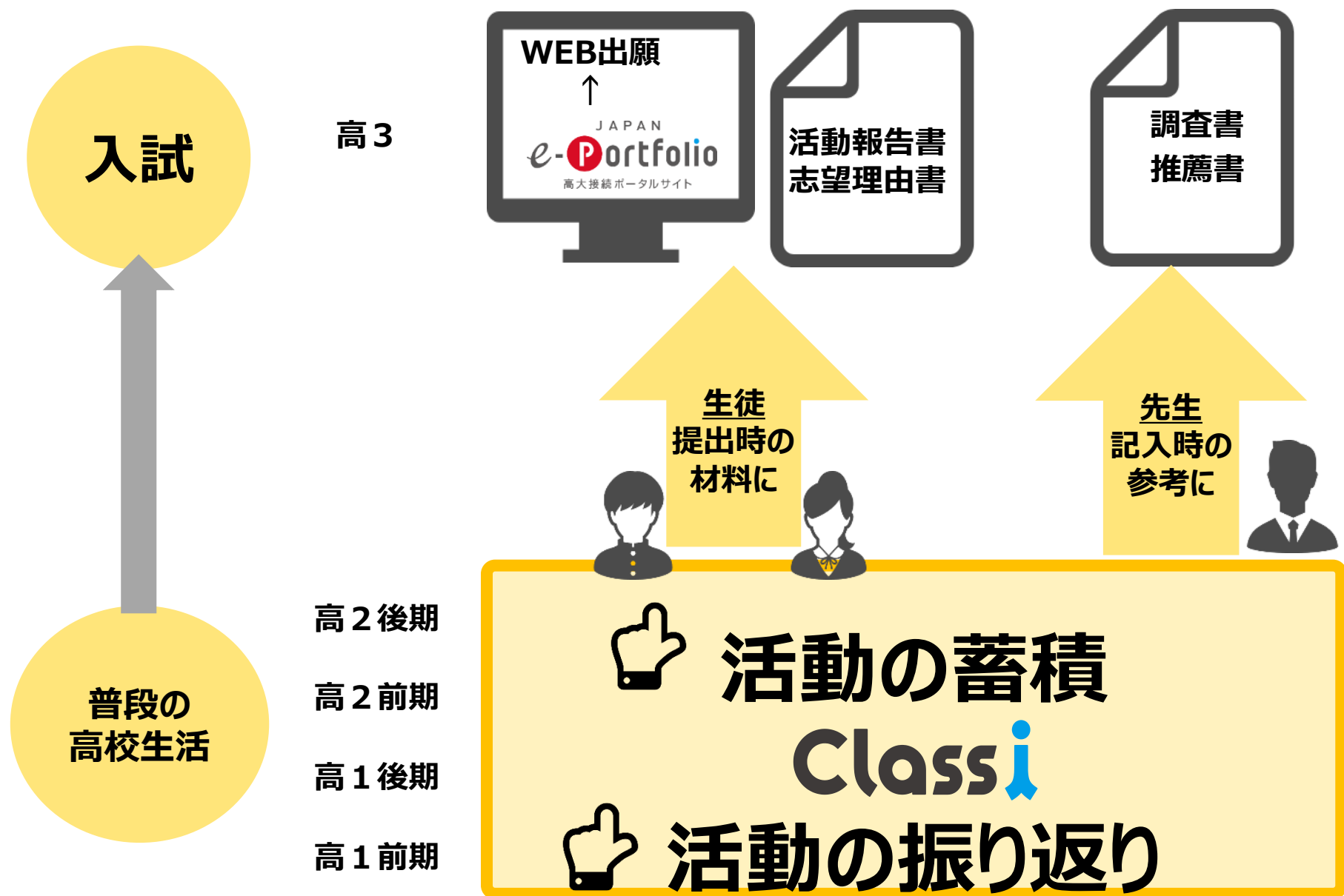
合否判定

学力検査

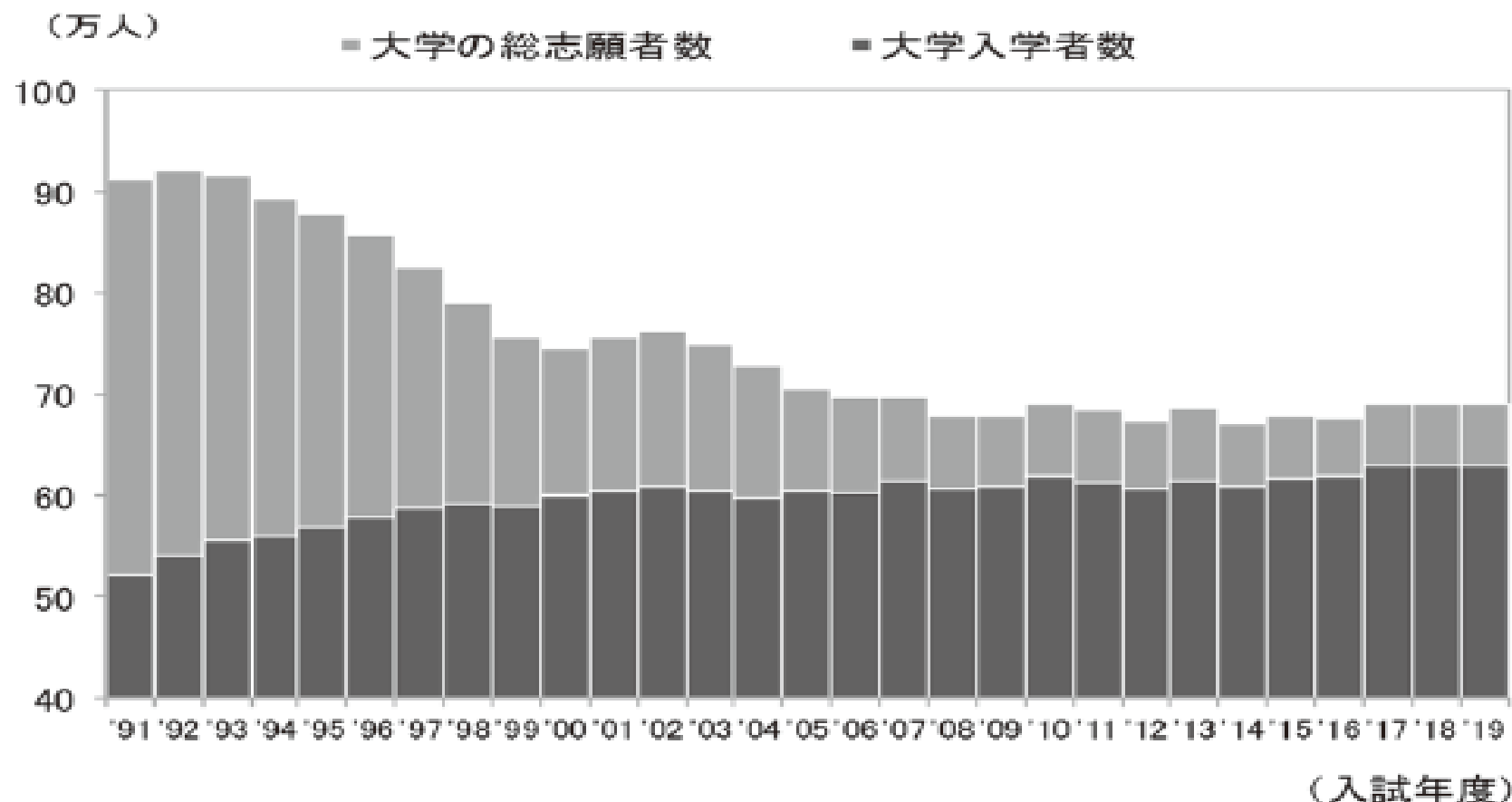
+

多面的総合的
評価
(主体性等)

※本人登録内容も全てダウンロード可



大学の総志願者数と入学者数の推移



* 文部科学省『学校基本調査』より。2019 年度は弊社推定値。

情報に関する系統の人気は継続

近年、AI、IoT、ビッグデータといった技術革新が高校生にとっても身近な話題となっていることもあり、情報に関する系統の人気が年々高まっている。例えば、総合科学系統の中の総合情報学系統では、志願者数の対前年指数が国公立大で126、私立大で133と大幅に増加している。また、理学系統の中の情報科学系統、工学系統の中の情報工学系統も志願者数が増加傾向にある。

情報系学部系統の志願者数の推移

設置区分	学部系統	学科系統	志願者数			対前年 指数
			'17年度	'18年度	'19年度	
国公立	経済・経営・商学	経営情報学	1,586	1,076	1,117	104
	総合科学	総合情報学	3,885	3,730	4,718	126
	理	情報科学	3,507	3,529	4,471	127
	工	情報工学	16,677	17,871	18,124	101
私立	経済・経営・商学	経営情報学	11,103	13,529	17,011	126
	総合科学	総合情報学	38,379	38,153	50,666	133
	理	情報科学	19,677	20,182	23,022	114
	工	情報工学	76,727	96,556	110,983	115

* 弊社調べ。5月中旬までに確認した情報をもとに集計。

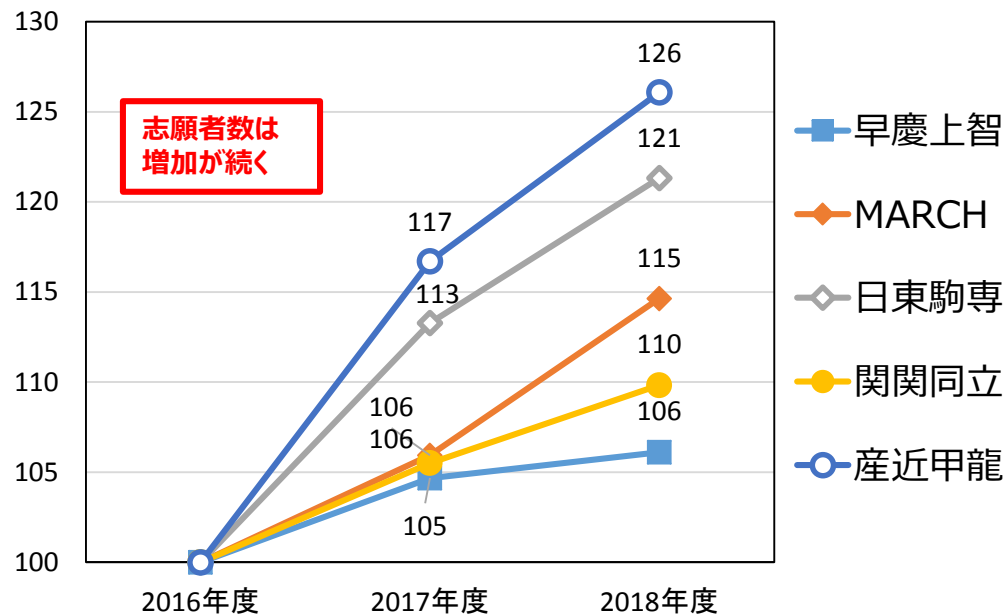
平成26年度には収容人員4000人以上の
大・中規模大で3万1千人の入学定員超過。
その9割が三大都市圏に集中



補助金のルール変更で、
入学定員超過を抑制

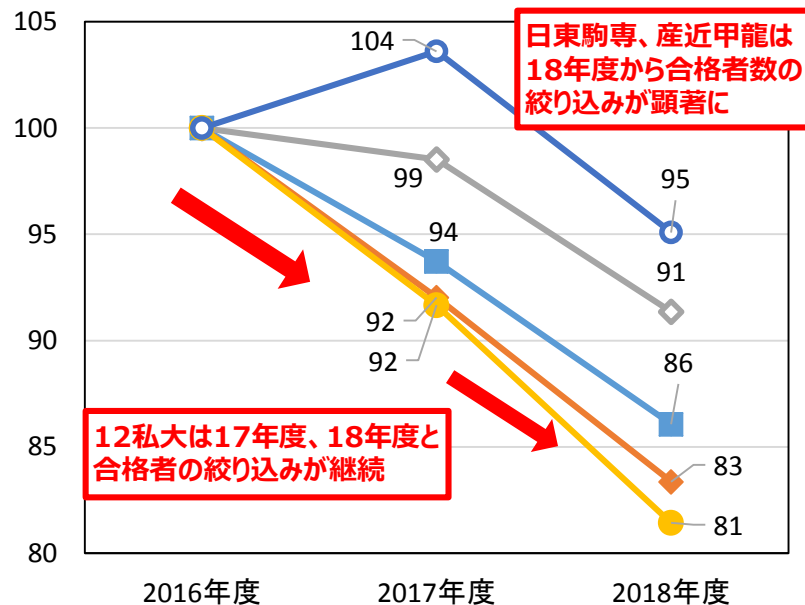
(対'16指数)

志願者数



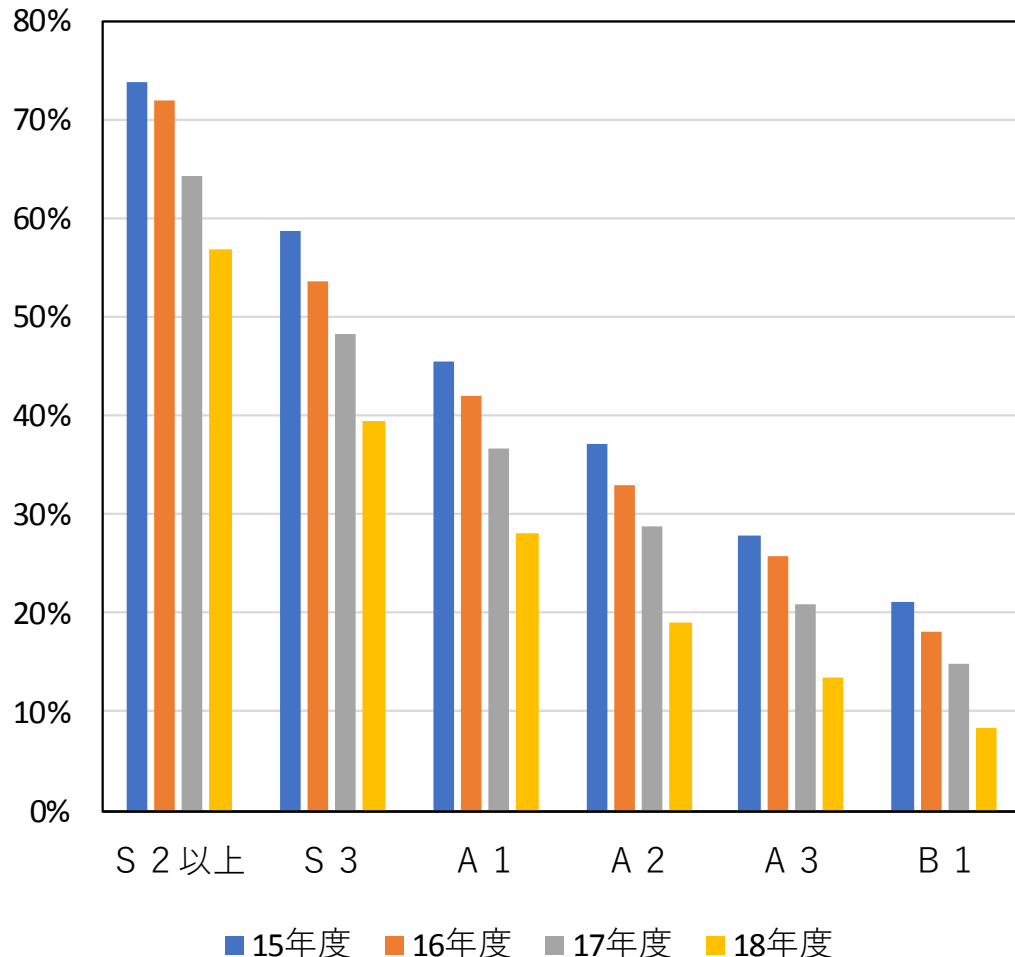
(対'16指数)

合格者数



12私大は17年度、18年度と合格者の絞り込みが継続
日東駒専、産近甲龍は18年度から合格者の絞り込みが顕著に

MARCH・文系（一般） GTZ別合格率

**GTZとは？**

「学習到達ゾーン」という、ベネッセが設定している基準です。S1～D3まであり、**S1が最も偏差値が高いゾーン、D3が最も偏差値が低いゾーン**になります。

MARCH文系では、すべての学力層において合格率が低下



難化



【進路観】

◆自分たちの経験した大学受験とは大きくかわってきている

→安易に「この大学・学部に行けば就職が安心」などという理由だけで進路を決めつけない。

→行きたい大学・学部に関して「なぜ」「どうして」その学部がよいのかを聞いてあげる。



【新入試に関して】

◆必要以上に心配にならない

→不安なのは全国の高校生、保護者みんな同じ。学校から発信されることを正確にキャッチ。新聞・ニュースの報道に振り回されない。



【お子様の学校生活の過ごし方に関して】

◆一番は温かく見守ってあげることが大事。

→新入試をみすえて、学校の行事も大事にしながら勉強ともしっかり両立させる。
これからは「受験のテクニック」は通用しなくなる。3か年をどう学び過ごしてきたか、「本質的な学びの力」がより求められる。

→社会の出来事にふれさせる。社会課題の何を解決したいのか？が、将来の学びたい学問につながることもある。

31 保護者の皆様へ、ホドヨイお節介のススメ

1. 健康的な、生活リズムをつくるのに協力する。

□規則正しい生活なくして、合格はおぼつかない。

⇒ **3つの時間を固定させる。(3点固定)**
起きる時間、勉強開始時間、就寝時間

2. 生徒の将来や受験に関心を持つ。

□生徒は外見よりも孤独で悩んでいる。

□一緒に考え、見守る姿勢が大切。

⇒ **まだまだ学力は伸びる。**
ちょっとしたことでも褒めることから。

3. 先生、学校を信頼する。

□生徒も保護者も入試の素人。
先生はプロ。

□保護者会や、面談には
可能な限り出席する。

□マスコミの入試報道で迷わない。

□様々な模試の偏差値に動揺しない。
偏差値は模試の母集団に左右される。
偏差値はあくまで現在位置。
将来の完全予測でない。

□子供以上に惑わない、慌てない。

⇒ **塾に対し過度な期待**
(思い込み)を持たない。

●最近の高校生に言ってはいけないキーワード



2020年 大学入試改革特集サイト

大学入試改革特集

検索

新大学入試の最新情報や
保護者のサポートについて
情報をタイムリーにお届けします

<https://manabi.benesse.ne.jp/nyushi/special/>

2020年 【高1生からが対象】 大学入試改革特集

入試改革によって、大学入試が大きく変わろうとしています。それに伴い、高校での学びも変化します。高校や家庭でどのように学び、活動すればよいのか。新大学入試のポイントと最新情報をお伝えします。



高1生の保護者必見

新大学入試の基礎知識



新大学入試で
英語はどう変わる？

詳しく知る >



大学入学共通テストの
全体像と学習のポイント

詳しく知る >



調査書・志望理由書の
活用について

Coming Soon



新大学入試で変わる、保護者の『役割』

Coming Soon

